

# 艦上戦闘機「日本幼児號」命名式に列して

— 獻納金寄託の皆さんへの報告 —

倉 橋 惣 三

昭和十九年九月二十日。第五回航空日。海軍大臣による報國號飛行機命名式が行はれました。この日命名せられる報國號飛行機は二百九機。機種によつて分かつては、艦上戦闘機百三十五、艦上爆撃機七十三、陸上攻撃機五。われらの「日本幼児號」は其の艦上戦闘機の一つであります。

谷松竹株式會社社長、兒童代表(東京都誠之國民學校初等科第二學年北澤のぶ子さん)が列し、その後方が海軍軍隊になつてゐます。

式典は午前十時から左の次第で行はれました。

豫て海軍省からの案内によつて、その朝、式場たる新橋

一、開 式(大臣入場)奏樂

演舞場に參集しました。各機獻納者代表の席を前部にして

一、修 祓(一同起立)

満場着席。壇上正面に、艦上戦闘機、陸上攻撃機、艦上爆撃機の威風勇壯たる大寫眞が掲げられ、白幣嚴かな神木ミ

一、降 神(一同起立)

獻饌の高脚臺が供へられてあります。その前方、向つて右手に海軍大臣(代理井上海軍次官)、命名式委員長(栗原海

一、祝 詞(齋 主(一同起立))

軍大佐)、左手が齊主(靖國神社高原權宮司及び神宮諸氏)、獻納者代表機種別總代(「艦上戦闘機」岡田衆議院議長、「艦

一、命 名(海軍大臣(一同起立))

上爆撃機」中澤全國聯合國民學校職員會會長、「陸上攻撃機」(村山朝日新聞社長)祝辭來賓(田邊大日本飛行協會會長、大

一、神符受納 委員長、來賓代表)

一、神符受納 委員長、來賓代表)

一、徹 饌(奏 樂)

一、昇 神(一同起立)

一、海軍大臣ノ獻納者ニ對スル感謝狀授與並ニ謝辭

一、祝 辭

一、壯途ヲ送ル辭(兒童代表)

一、齊 唱(命名式ノ歌)(報國ノ翼)

一、萬歲奉唱(一同起立)

一、挨拶(命名式委員長)

一、閉 式(大臣退場)奏樂

式の間、二つのこみが私の頭に交々徂徠してゐました。

その一つは、わが「日本幼児號」の第一線に於ける勇姿であり、その一つは、この獻納者たる全國の幼兒の純真可憐なる愛國心に充ちた顔であります。

戦局の急、殊に海軍飛行機が征いて闘ふ戦闘の背烈は、今や實に言語に絶するものがあります。攻めるも防ぐも、制空權を先決とし、體當り空爆を精魂とする今日、わけても物量侮り難き敵に對して、飛行機の數ミ一機々々の威力こそ、繫つて勝利の中心になるさいはれてゐます。わが「日本幼児號」は、この命名式と共に、その大いなる任務に武者振ひしてゐるのであります。この機が勇敢にして熟練なる勇士の搭乘によつて、所謂人機一體、縦機無盡の奮闘を敢行する日は最近のこみでありませう。或は明日、否今日か

も知れません。

飛行機の増産は夜を日について強行せられてゐます。日に如何に多數が前線の敵を目がけて飛び立つて征つていつてゐるこみでせう。その中で、國民の獻納にかゝるものを、陸軍では愛國機ミ呼び、海軍では報國機ミ呼んでゐるのでありますが、共に熱烈なる國民の盡忠精神の結晶であるこみに變りはありません。そして、それらの獻納者團の名が機名ミして機翼に録せられ、捨身盡忠の若人ミ共に、決戦に向つて羽ばたきして飛ぶのであります。なんたる光榮でありませう。しかも、敵機を空上に捕捉して之れを墜し悠々として無事歸還するを快ミするミ共に、又時に、敵ミ相撃つて自ら傷つき破るゝを一段の譽れミするこみもありません。わが艦上戦闘機「日本幼児號」の勇壯なる使命も亦、之れに他なりません。私の頭を廻轉する想像も亦、そこに到つて胸をつくものあらざるを得ません。その時、司會者の説明は私さにも斯ういふこみを告げました。戦場に於いて報國機が傷つき破れた時は、更に同じ機名を新たな機に録して、第二代第三代に及ばしめ、永久に此の機名を繼續保存せしめるさいふのであります。こういふこみは私は今日始めて知つたこみでありましたが、なんたる海軍の深い心づかひでありませう。同時にまた、その機ミしてなんたる名譽のこみでありませう。あゝ皆さん、「日本幼児

號」は斯くて永久に、生れ代つて國に盡すのであります。私は勿論第一代「日本幼児號」の武運長久を祈ります。しかし、七生報國を如實にし得る「日本幼児號」の幸福を喜んでやらずにゐられません。征け「日本幼児號」。爾は生きるも死するも、字義通りに不滅の名なのである。

こうした壯絶な想像を參差して、式中私の頭に浮び來るものは、全國の幼児の可愛い、しかも眞剣な顔でありました。初めて日本幼児飛行機獻納の計畫を提唱しましてから、全國幼稚園、保育所の熱意ある賛同は力強いものでありまして、それ〴〵諸先生の協力の賜であります。當の主體は素より幼児であります。拾萬圓の中には先生、保護者の参加も少なくありませんが、その中心は幼児であります。その幼児は「ボクラノヒコウキ」の出來ることを喜び、それが空を飛ぶ日を待ち、子さも心に誠を籠めて獻金したのであります。私の恣な想像は、この完成した「日本幼児號」の勇姿を全國の幼児に見せることが出來たらさも想つてみました。せめて私達の目に實物を見て、その報告を幼児にすることが出來たらなぞも想つたりしました。しかし、今日の戦局勢は、昨年までの如く、此の命名式を飛行場に於て擧げるべきが許されないのであります。私達は、正面の大寫眞にその活きた勇姿を描くのであります。がまた想ふに、幼児達の活潑な想像は、私達以上に活き

活き、この機の勇姿を描いてゐるに相違ありません。その可愛い、そして眞剣な澤山の顔が、重りあつて私の想像の目に浮んで來るのであります。今日集つてゐる各方面の獻納者代表の中で、私こそ一番幼年の日本國民の代表者であるべきを、如何に光榮さしていか知りません。全國の幼児諸君、あなた方の純眞な愛國の情は、今日この美しい艦上戦闘機の魂になつてゐるのであります。

式終つてから、式中に代表總代に授與せられた海軍大臣の感謝狀に、「日本幼児號」の大寫眞一葉が頒たれました。その感謝狀には次の如くあります。

#### 感謝狀

一、艦上戦闘機 壹基

今次大東亞戰爭ニ際シ國防充實ノ趣旨ニ依リ右製  
作資金ノ獻納ヲ辱ウシ感謝ニ堪ヘズ茲ニ深厚ナル謝  
意ヲ表ス

昭和十九年九月二十日

海軍大臣 米内 光政

日本幼稚園協會

代表 倉橋惣三殿

代表としての宛名は献金手續の事務上倉橋になつてゐますが、この感謝狀が献納者全體の方々であることは申すまでもありません。又、大寫眞は便宜上、東京女子高等師範學校附屬幼稚園に掲げて、全國の方々の上京の機會御覽下さるのを待つ事しました。横八四・四厘、縦五八・六の大寫眞で、ビンミ張つた兩翼下の日の丸の傍に「報國——471——（日本幼児號）ミ幅一ぱいに大きい文字で錄されてあるのが明瞭に見えます。尙寫眞の下部にも 報告第四

四七一號（日本幼児號）「艦上戦闘機」海軍省 ミ横書きされてゐます。白雲美しくたなびく碧空の下、三脚は地上に爪立てる如く、プロペラの一片は眞直ぐに天を突いて、英姿誠に颯爽たるものであります。尙命名式當日は急の案内でありましたのミ、代表以外二名の同伴さいふこさでありましたので、廣くお誘ひ合はずこも出來ず、私共共會の及川、野間兩君が皆さんに代つて參列されました。この段御諒承を願ひ置きます。（九月二十日記）

飛行機獻納金追加

「日本幼児號」飛行機獻納手續終了後、次の方々の獻金が到着いたしました。これ等は、御意志により、本協會の名で、「飛行機獻納金」として海軍省へ獻納致しました。

- 四五〇〇 山口市茶畑 龜山 幼稚園
- 二二一、〇〇 釜石市愛宕町 釜石中央保育園
- 二二〇、一〇 釜石市中妻 中妻子供之家保育園
- 七〇、六六 釜石市外小佐野 小佐野保育園
- 一〇〇、〇〇 澁谷區常盤松町五 實踐幼稚園
- 一二五、〇〇 市川市菅野 日出學園幼稚科
- 三五〇、〇〇 三島市田町 代表 土屋マサ子 三島市立幼稚園
- 五〇、〇〇 滋賀縣蒲生郡北比都佐村 必佐幼稚園

計 一〇八一、七六

以上の獻納手續終了後又左の二名の方々から御送金がありました。この分は各々その代表の方のお名前前で、やはり「飛行機獻納金」として海軍省へ獻納いたしました。右御報告と同時に、御好意を感謝いたします。

- 二二二〇〇 満洲國鞍山南十條十五 鞍山大和幼稚園
  - 一〇〇、〇〇 臺北市錦町一三六 錦幼幼稚園
  - 代表 高橋壽子
  - 代表 竹下ヲル
- これをもつて、飛行機獻納金のお取次は一應打ち切り度いと思ひます。

昭和十九年十月

日本幼稚園協會